

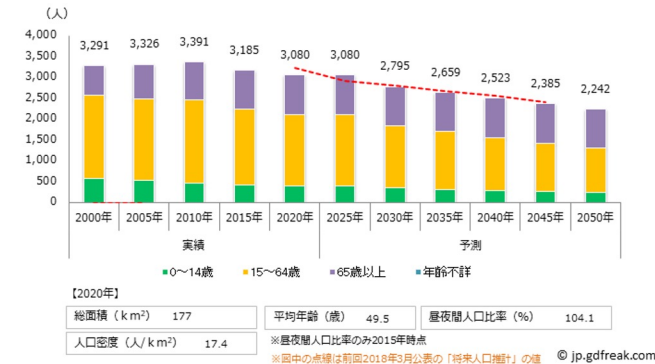
地域貢献・地域活性化に寄与する体験型教育プログラム“ミチシロカ”

地域社会の最先端の村でフィールドワークを実施

デジタル田園都市国家構想推進交付金に採択されている更別村

近年、新型コロナウイルスの影響や働き方の多様化を背景に、**地域社会に対する社会的な注目度はかつてなく高まり**、もはや一時的なブームではなく、**持続的な社会潮流**となりました。内閣官房の所管する「デジタル田園都市国家構想推進交付金」に採択されているスーパービレッジ構想を実現する更別村にて、フィールドワークを実施します。

更別村の人口推移



地域社会を担う人材を、「地域の最先端＝更別村」で育成する

更別村は、超高齢化とデジタル実装が同時に進行する「地域課題の縮図」であり、かつ「デジタル田園都市国家構想」のパイロットケースです。ここは既存の成功体験が通用しない、試行錯誤とイノベーションが求められるフロンティアと言っても過言ではありません。河野太郎大臣も視察に来られた「地域社会の最先端」たるこの更別村で今回のミチシロカ・フィールドワークを実施することで、**全国の地域に応用可能な課題解決の成功モデルを創出し、未来の地域社会を牽引する実践的な人材育成**につなげます。

ミチシロカに込められた想い ～道・未知・白・ローカル～

“地域”と“学び”を通じて、地域・学生をつなげ、地域の魅力を再発見・再認識

「ミチシロカ」は、40年余にわたり地域社会と手を携えながら歩んできた中央コンピューターサービス株式会社が展開する、人材育成×地域創生プロジェクトです。

「ミチシロカ」のサービス名に込められた想い・意味は、未来を担う大学生が自分自身の「道(=ミチ)を知る」「未知(=ミチ)を知る」きっかけになって欲しい。若者の真っ白(=シロ)な未来、無限に広がる可能性を地域(=ローカル)でこそ見つけて欲しい。そんな想いで名付けました。

わたしたちは、“地域”と“学び”を通じて、自治体・地域事業者・大学生・大学機関をつなげ、地域の魅力を再発見・再認識できるサービス（ミチシロカ）を提供することで、地域の「ミライのかたち」を共に考えてまいります。



地域固有の魅力を体験する地域づくり特化型PBL (Project-based learning)

地域が抱える課題や魅力と向き合い、体験する教育プログラム

ミチシロカは、大学生・大学院生を対象とした体験型教育プログラムとして、開発・提供・コーディネートをおこないます。2022年夏より開催し、北海道真狩村・音更町・中標津町で開催し、2026年冬に開催予定の更別村でのフィールドワークが7回目の開催となります。



更別村での取り組み内容

学生が7日間で更別村内でフィールドワーク

この度、更別村で2月8日（日）～2月14日（土）の7日間で、フィールドワークを行います。参加学生は、地域の課題や魅力などの現状を踏まえ、未来に向けてどのような地域づくり・社会づくりをしていくのか、考え抜きます。

今回のテーマは「一面の銀世界で地域社会について考える。」です。
「何もない」と言われる北海道の冬。しかしその「何もない」は果たして本当に「何もない」でしょうか。
一面の銀世界、真っ白で「何もない」世界の美しさの価値、「冬だからこそ」の魅力・そして課題を共に考えます。

最終日には、村長や役場職員、地域の事業者、住民のみなさんの前でフィールドワークを通じた活動報告会を行います。活動報告会のなかで、地域のみなさんと地域づくりのあり方についてディスカッションをおこないます。学生にとっても、地域の方にとっても、これからの地域づくりを考えるきっかけとなることを目指します。



更別村について

更別村は、北海道十勝平野に位置する人口約3千人の農業が基幹産業の村です。国内有数の大規模農業を基盤とし、「日本一の金持ち村」と呼ばれるほどの経済力を持つ一方、人口減少・高齢化といった課題にも直面しています。その課題解決のため、「更別村SUPER VILLAGE構想」を立ち上げ、デジタル技術を活用した地域活性化を進めており、スマート農業やDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進しています。

人口：3,055人（2025年10月時点）
面積：176.9平方キロメートル